

上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

長らく「現金決済」が主流だった日本も、インバウンドの拡大、人手不足対策などの要因から「キャッシュレス」がにわかに注目を集めています。インバウンド対策ひとつをとっても、観光客が通過するだけでは地元が潤うことはありません。インバウンドの真の取込みには、お金を使ってもらう仕組み＝キャッシュレス対応と、そのお店がキャッシュレス対応だということを知ってもらう情報発信こそが必要なのです。

このような背景から、3月3日から4日間、北九州商工会議所観光サービス部会有志など17名の皆様が、キャッシュレスの本場 中国・上海を訪れ、街角でウィーチャットペイを実際に使いながら、今ここで何が起きているのか、これから何が起ころうとしているのかを体験・体感していただきました。今回はその一端をレポートします。

2019年3月14日

【第20回】『キャッシュレス最前線を知る！

～北九州商工会議所観光サービス部会・上海視察ツアー～』について

【今日のポイント】

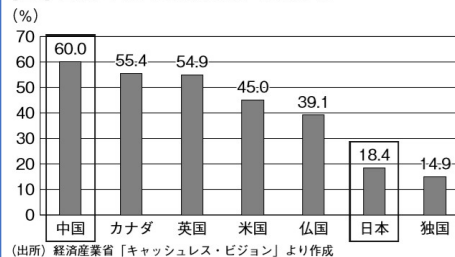
- ◆「スマホだけで、財布いらず」の中国の日常を、日本の皆さんに体験していただき、インバウンド需要の取込み、人手不足対策に「キャッシュレス対応」が不可避であることを体験・体感していただきました。(例えば)
 - アリババグループが運営するスマホをベースに、宅配と実店舗、ロボットレストランを体験。
 - 「スマホで店を予約⇒各テーブルに置いてあるQRコードをスキャンしスマホ上で注文⇒食事のあとはその場でスマホを使った支払い」を体験し、中国での省人化の取組みを体験。
 - スマホ決済の次に来る「スマホなし決済」＝静脈(手のひら)認証など最新のトレンドを体験。などなど

1 中国キャッシュレス事情

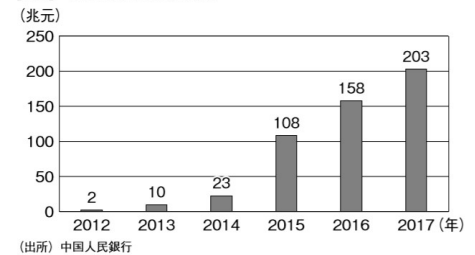
経済産業省のデータでは、中国のキャッシュレス比率は約6割(日本は2割弱)。決済額も右肩上がりです。

中国でここまで普及しているのはQRコードを使ったスマホ決済はお店にも消費者にも手軽で便利だからというのが一番大きな理由ではないでしょうか。

【図1】 国別キャッシュレス決済比率 (2015年)



【図2】 中国のモバイル決済額



2 今回の視察では。。。。

今回の商工会議所観光サービス部会の皆様の視察は、昨年実施した昨年5月に実施され、大好評だった「スマホ決済セミナー」を受けての現場視察ツアーでした。

参加者の皆様それぞれ街角や飲食店にてスマホで注文、決済を試して、その便利さを体感していただくとともに、導入のコストなどについても真剣に検討される姿も見られました。

また、アリババグループが展開する新業態のスーパーや、省人化に取り組む、日系小売大手と合弁している究開発型のベンチャー企業を訪問し、

実店舗とネットでの買い物を融合させる取組みや、現在開発中の静脈認証決済を導入したコンビニや、深夜に店舗フロアを掃除するロボットなどを視察するなど、上海発の世界をリードする最新技術・トレンドにも触れていただきました。



3 この動きを我々はどう活かすべきか？

今我々に求められているのは、上海でのこれらの動きをまねすることではなく、対岸での動きを虚心坦懐に見て触れて、これをインバウンドの取込みや、人手不足対策に活かす具体的なアクションを起こすことではないでしょうか？ 足元では、門司港駅の復原、小倉城のリニューアルなどの中、地元が真に潤うインバウンド対策はまだまだやるべきことが多いように感じた、今回の視察受け入れでした。また、このような体験を一人でも多くの方に提供できるよう、今回の企画に参加した一員として、上海事務所も情報発信力をさらに強化すべきだと改めた学んだ貴重な体験でした。



世界最大のスタバ旗艦店前で